

以下缺諸本同

一本與書

鎌倉於旅宿藤谷殿被見御堂大殿集予始而見之則書寫之此本者從故禪門之時所持之雖然不分明本欲以證本可校合者也

嘉元二年二月廿七日 判

津生

家經朝臣集

敬上人公乎あつたしつちひふもあまのよかすの
みろくうらまへし

山嶽來よあまのこのうらまへしあまのよかすの
志ののよくさるみちよし

詞苑雜下
かさうたのうらまへしあまのよかすの
玄集

極らる詠落葉繞時極一字

古本一字抄
風としみぢちらうくこのあまのよかすの
あま一字

大井河落葉満流

附鳥養書

新古今冬

しんを舟志をくまうにむす可き事ありて大なる水

九月廿九日惜秋

社とてとむる事ありてむす可き事ありて大なる水

山家梅

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

野崎

日とてむす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

五月の事ありてむす可き事ありて大なる水

玉葉雜一
五代夏
老玉万

五月法花職法証空言有所

家便

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

居易初到事ありてむす可き事ありて大なる水

後拾遺秋上

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

落葉如雨

後拾遺冬

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

西の事ありてむす可き事ありて大なる水

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

秋の事ありてむす可き事ありて大なる水

むす可き事ありてむす可き事ありて大なる水

返

Handwritten text in a cursive script, likely a response or return letter.

伊勢大輔集
あまの
あまの
あまの
あまの

伊勢大輔集

Handwritten text in a cursive script.

同集

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

錫杖寺

万代叔

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

後拾遺別

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

Handwritten text in a cursive script.

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

金葉雅上

続訂花秋上

拾西交詠之家秋月

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

〆^{新古今冬} f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n f a n
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u

〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u
 〆 f o u

統制 止

...

...

詞花夏

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

七月七日

古曾了入道有極引詞在九条別業右白贈
 以一首于時雪降

同
 同

大
小

一月廿八日

^{二十}年
 尋花日
 寄

於西交惜意不
 也

三月廿八日向
 入

也
 也

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

詠明雀麦勝衆花 序者有ん

一字抜

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

或人の社木一をめぐりてはみづかき

とらふまじきなり

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

八条の家をめぐりてはみづかき

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

此哥恐失題字

お宿のみづよ 船の中月よりさびしき

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

悲歎之間無惜放遊被牽好客至東山田田跡

不能健恐遊月依水知山紫之事而已

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

道雅三位西八条障子絵合

あきらかにいふはしるすもてのよきまゝなり

此哥亦忘失題

丹波書

九

Handwritten text in a cursive style on the right page, enclosed in a rectangular border.

此間恐有缺

夫木乃雅尔山庄哥合夫木比四

Handwritten text in a cursive style on the left page, enclosed in a rectangular border.

丹島書

一字抄
 冬日於西宮詠行客吹笛 序者
一字抄
 於西宮詠行客吹笛 秋字
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛

一字抄
 永業二年十一月十九日為この哥恋月
金葉秋
 同五年於陽化一音
風雅春中
哥合三番右
万代春下
哥合九番右
後拾遺秋上
哥合十五番右
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛
 於西宮詠行客吹笛

邦寶書

十二止



卷之四
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二

206

